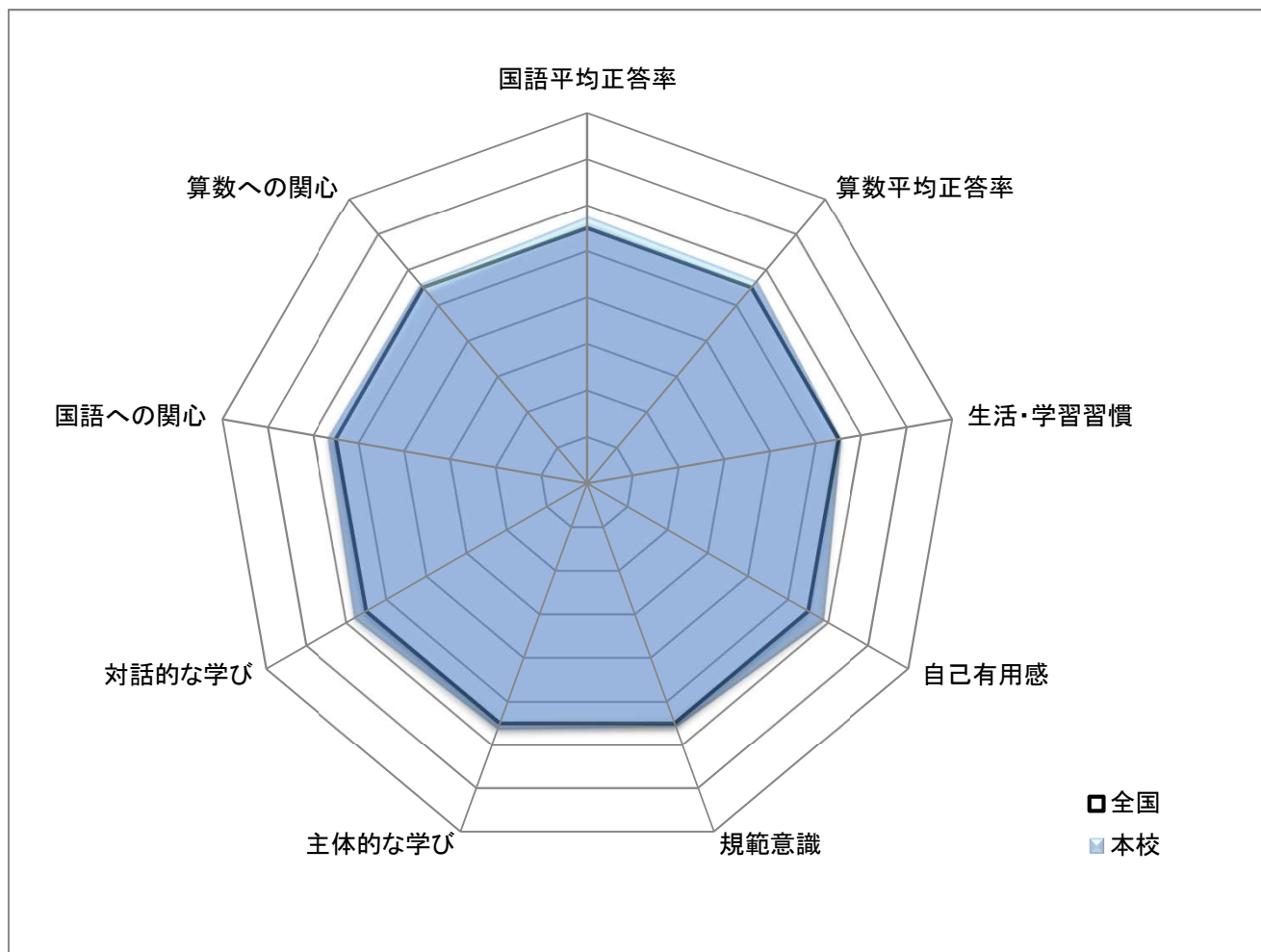


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

「自己有用感」と「対話的な学び」の数値が高いことから、本校の児童は互いに安心して話し合ったり、協力して活動したりしながら学び合うことができると考えられる。一方で、生活・学習習慣については、睡眠時間や食生活、また家庭学習への取り組みや読書習慣などの点で、まだまだ伸びしろがある。

国語・算数に関して、その教科への関心が高いほうが平均正答率も高い傾向にある。さらに詳細をみると、国語、算数共に、課題について自分なりの考えを明らかにし、図や文章で表現する問題の正答率が著しく低い傾向が見られた。

《授業改善のポイント》

国語・算数に限らず、全ての学習活動において児童の興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組めるような導入や、その後の指導展開を工夫する。特に、児童の対話を重視したり、探求的活動を取り入れたりしながら、児童がその課題への関心を高め、より主体的に学習に取り組めるようにする。

また、自分の考えを明確にもち、適切な方法で表現することができるようにするために、問題意識をもって課題に取り組み、考えの根拠を明らかにしながら、自分の言葉で書いたり話したりする活動を積極的に取り入れる。また、結論や根拠、具体例の示し方など、具体的な方法を指導しながら、繰り返していく。

《チャートの特徴》

全ての項目について、全国平均を上回っている。また、全体的にバランスの良いチャートを示す結果となった。

教科に関しては、「国語への関心」が「算数への関心」より高く、同様に「国語平均正答率」が「算数平均正答率」よりも高くなっている。

児童の意識調査に関しては、「自己有用感」と「対話的な学び」の項目が、他に比べてより高い。一方で、「生活・学習習慣」については、全国とほぼ同等であった。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習キャンペーンや健康貯金の取り組みを通して、家庭学習や基本的生活習慣への家庭の意識を高める。また、日常の宿題についても、保護者に丸付けやチェックなどで協力してもらいながら、学習状況を理解してもらい、学校と協力して児童の学力向上を目指していく。